

水稻湛水直播におけるドローンは種のおこし

(上川農業改良普及センター富良野支所)

背景

【富良野市の概要】

- 耕地面積9,345ha(R4)で、水田は基盤整備や減反政策を機に転作が進み畑作物や、たまねぎ・メロン等の園芸品目が主流である。水稻は園芸との複合経営で行われている

【取組の背景・課題】

- 一戸当たりの平均面積は、ここ15年で10.7haから18.2haに増加している。そこで、労働力不足に対応する省力化技術の導入が求められている

- 水稻と園芸品目の春先の作業競合を避け園芸品目を優先させるために、水稻湛水直播を導入している農家が見られる

- 地域でドローンを用いた防除が個人・集団で増加している

- ドローンの活用をはじめ、さらなる省力化技術の導入普及が課題となっている

普及活動内容

- 農業者が試行していたドローンは種に対して、地域慣行のは種方法(条播等)との生育等を比較した

- ドローンは種のおこしの概要
使用機器：DJI AGRAS T20
品種：えみまる

地域で多く導入されています。

- 普及センターは、は種時に立ち会い作業状況の記録や、苗立本数・生育調査等を行った

【ドローンは種のおこしの注意点】

- 種子の均一散布のために、は種は風のない日に行う(写真1)

- は種深度を確保するため、土壌表面の固さに注意し、代かき後1~2日程度では種が良い(写真2)



写真1 は種時の様子



写真2 は種直後の様子

普及の成果

【地域の慣行方法との比較】

- は種作業時間は、ドローンは種で13分/10a程度で、地域慣行の湛水直播と差は少なかった

- 苗立本数は地域慣行よりやや少ないが(図)、目標値を十分に確保出来ている状況である

- 生育期節は慣行と同等で推移し、順調に生育している(写真3)

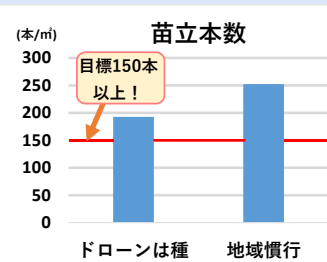


図 苗立本数(本/m²)の比較



写真3 7月26日現在の生育の様子

【今後の課題と活動】

- は種時に種子が詰まりしばしば作業が停止した。そこで、は種作業時間を短縮するため、種子詰まりの解消が今後の課題となる

- 地域でドローンは種に関心がある農業者に対し情報提供していく